

「NP がある」属性文の形容詞的特徴

The adjectival features of "NP ga aru" construction

鄧 超群

DENG Chaoqun

提要 本文主要探讨了「NP がある」属性句の形容詞性特征及其与形容詞句之间的异同点, 指出「NP がある」属性句の以下三个特征与形容詞一致: ①在句中既可做连体修饰成分, 也可做谓語成分; ②可以与程度副詞搭配使用, 但不能与数量副詞搭配使用; ③可用于比较句中。但在以下两个方面, 「NP がある」属性句与形容詞有很大的差异: ①在句中充当谓語成分的频率要高于充当连体修饰成分の频率; ②由形容詞转换而来的名詞形「～さ」由于自身的语义不完整性, 其在句中不能单独使用, 而需要与连用修饰成分或连体修饰成分连用。

キーワード: 「NP がある」属性文 程度副詞 比較表現 形容詞文

目次

1. はじめに
2. 連体修飾用法と叙述用法
3. 程度副詞との共起
4. 比較表現との共起
5. 形容詞文との繋がり
6. 終わりに

1. はじめに

日本語の所有文は、(1) に示したように、様々な所有關係を表すことができる。

- (1) a. 私に (は) カシオの腕時計がある。
- b. 私に (は) 兄弟がある。
- c. 車に (は) エンジンとタイヤがある。
- d. 私に (は) 自信がある。

(1a) はモノの所有、(1b) は人間関係の所有、(1c) は部分・全体関係の所有、(1d) は属性の所有を表している。しかし、ともに所有関係を表していながら、この4つの文では文法的な違いが見られる。

- (2) a. *私に (は) とても/非常にきわめてカシオの腕時計がある。
 b. *私に (は) とても/非常にきわめて兄弟がある。
 c. *車に (は) とても/非常にきわめてエンジンとタイヤがある。
 d. 私に (は) とても/非常にきわめて自信がある。

(2) から分かるように、同じく所有関係を表すにもかかわらず、(2a~c) は「とても/非常にきわめて」などのような程度副詞と共起することができないのに対して、(2d) はそれらの程度副詞と共起しても文法的に違和感が生じない。その理由として、鄧 (2018) では文中に使われる「が」格名詞 (NP) の意味構造が挙げられると述べ、そして①状態の成分、②段階的属性、③評価性、④抽象性、⑤譲渡不可能な所有性の5つの条件を満たす名詞こそがこのタイプの構文に出現することを明らかにした。

本稿は考察の便宜から、まず (2d) のような程度副詞と共起できる所有文のことを「NPがある」属性文と呼ぶことにする。そして鄧 (2018) の結論を踏まえ、「NPがある」属性文の統語的特徴を考察していく。(3) に示したように、「NPがある」属性文は、形態的に動詞述語文の形を取っているが、意味的には形容詞性を持っており、形容詞文に置き換えられるのである。

- (3) a. とても雰囲気がある。→とてもいい雰囲気がある。→雰囲気がとてもいい。
 b. とても人気がある。→とても高い人気がある。→人気がとても高い。
 c. とても個性がある。→とても強い個性がある。→個性がとても強い。
 d. かなり痛みがある。→かなり強烈な痛みがある。→痛みがかなり強烈だ。
 e. 非常に関係がある。→非常に密接な関係がある。→関係が非常に密接だ。
 f. 非常に意味がある。→非常に深い意味がある。→意味が非常に深い。

(3) に示しているように、「NPがある」属性文に意味上、下線を引いたような形容詞的な意味が潜在していることが分かった。この潜在的な形容詞的な意味は本稿で「NPがある」属性文の「+α」の形容詞性と呼ぶ。「NPがある」属性文はこの「+α」の形容詞性を通じて、形容詞文との関連性は何か、また形容詞文の統語的特徴をいかに共有することが実現可能かといった課題を次章から考察してみたい。

2. 連体修飾用法と叙述用法

まず、現代日本語文法論において、形容詞は主に二つの用法があると考えられる。一つは、(4a) のように体言の前に置かれ、体言を修飾する用法 (連体修飾用法) であり、もう一つ

は(4b)のように述語成分になる用法(叙述用法)である。八亀(2007)では「規定語」と「述語」との二つの機能に分けられている。

- (4) a. 青い空
b. 空が青い。

仁田(1998)は、小説資料を対象に、現代日本語において形容詞の上述の二つの用法の使用頻度を調べ、形容詞の連体修飾用法が述語用法の2倍近く多いことから、日本語の形容詞の主な働きは連体修飾用法にあると指摘した。八亀(2007)でも、書き言葉に関しては形容詞の特徴的な機能が規定語となることであると述べられている。

前述したように、日本語の「NPがある」属性文も意味的に形容詞と類似性が高いため、文法的にも連体修飾用法(5)と叙述用法(6)が見られた。

- (5) a. この作品を見た感想は、とても緊迫感がある動画だと思いました。(Yahoo!ブログ)
b. これは、勉強するきっかけがなかなかつかめない子どもにとっては、とても効果がある方法です。(『わが子を算数大好きに変える本』)
c. フィンさんはとても勇気と責任感がある人で、いつも守ってくれた。(『蜂が戦い椰子も働く』)
d. 猫についてとても罪悪感のある思い出があります。(Yahoo!知恵袋)
- (6) a. 私は「おてかず」というのを最近知ったので、聞くととても違和感があります。(Yahoo!知恵袋)
b. 超一流の芸術家は、とても営業力があります。(Yahoo!ブログ)
c. この葉はビタミンやミネラルが豊富でとても栄養があるので、捨てないでサラダにも使いたいもの。(『女性セブン』)
d. バナナのはえたバスルームもとても雰囲気があり、ゆったりできそうですね。(Yahoo!ブログ)

しかし、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)より抽出された「NPがある」属性文の統語用法を統計すると、連体修飾用法より叙述用法のほうが例文数が圧倒的に多いことが分かった。この点においては書き言葉における形容詞文と大きく異なっている。

表1 「NPがある」属性文の統語的用法

統語的用法	「とても」と共起する 例文数と比率		「かなり」と共起する 例文数と比率	
	連体修飾用法	13例	12.15%	21例
叙述用法	94例	87.85%	184例	89.76%
合計	107例	100%	205例	100%

表1に示されているように、程度副詞「とても」と共起する場合にしても、「かなり」と共起する場合にしても、「NPがある」属性文は連体修飾節として用いられるのはただその中の1割強にしかならず、それに対して、叙述用法は9割近くあった。これは「NPがある」属性文の用法の特徴の一つとして挙げられる。要するに、「NPがある」属性文は「+α」の形容詞性を受け継ぎ、連体修飾と叙述の二つの用法を持っていながら、実際に叙述機能がメインに使用されているのが特徴である。

なお、「NPがある」属性文が連体修飾語として働く場合に、名詞(NP)の格形式は、「NP ガアル」(「が」格)、「NP ノアル」(「の」格)、「NPアル」(裸格)とあるように、多様化している(彭2002)。

- (7) a. 防衛産業色の強い企業や国民に人気がある企業の買収は、できるだけ避けたい。
 b. 大そう人気のあるキャストだったらしいが、感心しなかった。
 c. 人気ある英国や米国。
- (8) a. 大人からみると確かに年寄り扱いされるのには抵抗がある年齢かもしれません。
 b. 今の革命経験のある指導者が亡くなった後、新たな問題が出てくるでしょう。
 c. どれも夕方から夜を飾る風情ある草花である。

(7) と (8) の例文は彭(2002)より転載

3. 程度副詞との共起

程度副詞は「状態や性質を表す述語についてそのレベルや度合い、段階、幅(即ち、程度)を限定する働きがある」(沖森ほか2016:24)。その中のレベルや度合い、段階、幅は程度と量の二つの意味合いをもっている。工藤(1983)は「とても」「非常に」「たいへん」「かなり」「ずいぶん」などの副詞をすべて「ほぼ疑いなく程度副詞とされる代表的なもの」(工藤1983:126)の類に入れたが、(9)(10)の例に示したとおり、程度副詞にしても、①程度のみを表すものと②程度・量の両方を表すものの二つのグループに分けられる。

(9) 程度のみを表すもの

- a. とても/非常に/たいへん 美味しい/暑い/きれいだ。 [程度]
 b. *とても/非常に/たいへん ごはんを食べた/お酒を飲んだ/歩いた。 [量]

(10) 程度と量の両方を表すもの

- a. 少し/かなり/ずいぶん 美味しい/暑い/きれいだ。 [程度]
 b. 少し/かなり/ずいぶん ごはんを食べた/お酒を飲んだ/歩いた。 [量]

程度副詞のこの特徴は「NPがある」属性文に用いられる場合にも顕著に見られた。まず、「少し」「かなり」「ずいぶん」は「NPがある」属性文と共起すると、名詞NPの意味によって、程度と量の二つの意味を表すことができる。

- (11) a. 大人になった今も料理には少し自信があるのはきつと母に褒められたからなんだろうと思っています。 (Yahoo!知恵袋)
- b. 千歳空港から伊丹空港への途中で見える「富士山」！少し雲があり、すっきり撮れませんでした！ (Yahoo!ブログ)
- (12) a. テレビで地元の花粉情報をチェックし、飛散の少し前から、薬を服用するなどの対策をとると予防にかなり効果がある。 (河北新報・朝刊)
- b. 金沢の街は、かなり積雪がありました。 (Yahoo!ブログ)
- (13) a. ずいぶん勇気があるなど思われている人も、じつは震えている自分を奮起させて発言しているということを、人は知らないのではないかと思います。 (『きみは変わる!』)
- b. 食堂のとなりには、図書室がありました。ずいぶん本がありますね。 (『海底二万里』)

上記(11~13)の例文aは程度を表すものであり、bは量を表すものである。同じ文型に用いられながらも、名詞NPの意味によって「NPがある」構文の意味は程度と量の二つのタイプに分かれると思われる。aの例文に現れる「自信」「効果」「勇気」は段階的属性を持っているのに対して、bの例文の「雲」「積雪」「本」は量の多寡を表すことができるが、程度の段階性を表すことができない。要するに、aの例文のような段階的属性を持つNPが入っているからこそ、「NPがある」構文は属性文になるが、逆にbのような例文は属性文にならない。という理由から、前の(11-13)の例文は、「とても」「非常に」「たいへん」のような程度のみを表す副詞に入れ替わると、次のような結果になる。

- (11') a. とても/非常に/たいへん自信がある
 b. *とても/非常に/たいへん雲がある
- (12') a. とても/非常に/たいへん効果がある
 b. *とても/非常に/たいへん積雪がある
- (13') a. とても/非常に/たいへん勇気がある
 b. *とても/非常に/たいへん本がある

一方、「たくさん」は量のみを表す副詞の代表的なものであり、主に動詞を修飾する働きを持つとされている。(14a)のように、「NPがある」属性文は「たくさん」と共起できないことは、この構造は形容詞との類似性が大きいことを裏付けることができよう。

- (14) a. *たくさん自信/効果/勇気がある
 b. たくさん雲/積雪/本がある

また、程度副詞と共起する「NPがある」属性文の名詞には、もう一つの特徴が見られた。

それは、形容詞から転成される名詞が多いということである。

- (15) a. にぎやかだった車内も少し静けさがありました。 (Yahoo!ブログ)
b. つまり一般人が予想するよりも外国語の学習にはかなり難しさがあるということ
を、知っておかなくてはならない。 (『英語の学び方』)
c. 少し深さがあればいろんな用途がありますので、何枚あってもいいでしょう。
(Yahoo!知恵袋)
d. 弟のようにもう少し奔放さがあればいいのだが。 (『情熱の贈り物』)
- (16) a. 僕も卒業生なので非常に親しみがあって毎日朝、子供と一緒に通ってたんですが。
(『同じ年に生まれて』)
b. この提携にはとても旨みがあったことが何年も経過するうちに証明された。
(『80,000 点に学ぶ新製品開発マーケティング』)
c. 急性中耳炎は、鼓膜内に膿が溜まります。発熱を伴い、かなり痛みがあります。
(Yahoo!知恵袋)
d. 生活実感からですが、この天然素材の無垢フローリングにはとても暖かみがあり、
豊かな質感もかもし出されています。 (『エコハウスに住みたい』)

(15) (16) に挙げられるのは形容詞から転成された名詞の例であり、(15) はそれぞれ形容詞「静けし」「難しい」「深い」と形容動詞「奔放」の語幹に接尾辞「さ」、(16) は形容詞「親しい」「旨い」「痛い」「暖かい」の語幹に接尾辞「み」をつけた語である。このように、「NP がある」属性文は形態的にも意味的にも形容詞と親近性を持っているため、形容詞文に置き換えることができると考えられよう。

- (15') a. 少し静けさがあった → 少し静かであった
b. かなり難しさがある → かなり難しい
c. 少し深さがあれば → 少し深ければ
d. もう少し奔放さがあれば → もう少し奔放であれば
- (16') a. 非常に親しみがあって → 非常に親しくて
b. とても旨みがあった → とても旨かった
c. かなり痛みがある → かなり痛い
d. とても暖かみがある → とても暖かい

なお、「NP がある」属性文のこの特徴が巧みに利用され、特に翻訳の面においては、外国語の形容詞に対応する日本語の形容詞が欠けている場合に、よく「NP がある」属性文で代替する。この点は大塚 (2004) にも指摘されている。

表2 英語の形容詞に対応する「NPがある」属性文

brave	勇気がある	influential	影響がある
capable	能力がある	interested	興味がある
charming	魅力がある	popular	人気がある
comprehensive	理解力がある	powerful	力がある
creative	創造力がある	randg	威厳がある
credible	信頼がある	responsible	責任がある
effective	効果がある	self-confident	自信がある
historic	歴史がある	sensible	分別がある
humorous	ユーモアがある	thoughtful	思いやりがある
imaginative	想像力がある	valuable	価値がある

日本語には形容詞の数が少ないとよく言われる(玉村1974、森田1980など)。玉村(1974)では日本語の基本語中の形容詞の百分率を外国語の形容詞と比べた結果、日本語(雑誌90種の場合)の4.31%(形容動詞を入れて7.88%)に対して、英語は16%、ドイツ語は15%、フランス語は16.7%、中国語は14.6%を占めていることから、この4つの言語のいずれにしても、日本語の形容詞より倍以上の比率を持っていることが分かった。

このように、外国語の形容詞を日本語に翻訳する場合に、日本語の形容詞の不足を補完する手段の一つとして、「NPがある」属性文で表現されることが少なくない。表2に示しているように、日本語の「NPがある」属性文は形態的に動詞述語文の形を取っているが、意味的には英語の形容詞一語と同じ意味特徴が備わっている場合が多く、基本的には形容詞文の性質を持っていると言えよう。

4. 比較表現との共起

また、「NPがある」属性文は「Aより(は)もB〜」「Aに比べてB」「A(という)よりB」などの比較表現に用いられることもでき、形容詞文との類似性を示すものがある。

- (17) a. 長年の社会部記者、デスクの経験から放送は新聞に比べて判断に甘さがあるのではないかという反省があった。(NHK社会部記者)
- b. 今でも他の凡作よりは人気がありますが、残念ながら、かつての勢いはもうないですね。(Yahoo!知恵袋)
- c. 向いてないというより、責任感があるようで、やっぱりどこか責任感がないんだと思うんですね。(『定本・野田秀樹と夢の遊眠社』)
- d. そもそも、四角四面に仕事をしているより、多少のユーモア感覚がある人のほうが、できる人に見えやすいものだ。(『仕事ができる人のちょっとしたコツ400』)

- e. 否定証拠を与えることは、正しいインプット（肯定証拠）だけを与える指導よりも、外国語学習に効果があるのでしょうか。（『英語習得の「常識」「非常識」』）

(17) の例文はそれぞれ「新聞に比べて判断が甘い」「ほかの凡作よりは人気が高い」「向いてないというより、責任感にあふれている/責任感に満ちている」「四角四面に仕事をしているより、多少ユーモアのある人」「…(略) 指導よりも、外国語学習に効果的である」のような比較表現に置き換えることができる。

5. 形容詞文との繋がり

さらに、構文上において、「NPがある」属性文は形容詞文に比べ、以下の文法的な相違点を示している。

(18) a. 形容詞文

昨日は暑かった。→昨日はとても暑かった。

b. 「NPがある」属性文

*昨日は暑さがあった。→昨日はとても暑さがあった。

→昨日は全身が濡れるような暑さがあった。（作例）

(19) a. 形容詞文

清水オヤジの写真は美しかった。→清水オヤジの写真はとても美しかった。

b. 「NPがある」属性文

*清水オヤジの写真は美しさがあった。

→清水オヤジの写真はとても美しさがあった。

→清水オヤジの写真は、スーッスーッとした、まるで水彩画のような美しさがあった。（『小津安二郎と映画術』）

(20) a. 形容詞文

彼女はセクシーだった。→彼女はとてもセクシーだった。

b. 「NPがある」属性文

*彼女はセクシーさがあった。→彼女はとてもセクシーさがあった。

→彼女はニューヨークにきたばかりの女の子特有のセクシーさがあった。

（『ブッダと結婚』）

形容詞から転成された名詞「～さ」には意味的な自足性がないため、文中に単独で用いられることができず、連用修飾語か連体修飾語をつけなければならない。この点は形容詞とかなり違いをみせている。(18) (19) (20) の例文から分かるように、形容詞「暑い」「美しい」「セクシー」は単独で文中に用いることもできれば、連用修飾語「とても」で修飾することもできる。それに対して、形容詞から転成された名詞「暑さ」「美しさ」「セクシーさ」は、

単独で文中に用いることができない。その前に連用修飾語「とても」で修飾するなら、自然な文になる。また、その意味を補足するような連体修飾語で限定する場合にも適的な文になる。

実際に、形容詞からの転成名詞「～さ」は、上述の「NPがある」属性文のみならず、単独で性状規定文の述語になることもできない。この点は新屋（2014）にも指摘されている。新屋（2014:34）は「～さ」は意味的に形容詞に近いにもかかわらず、(21)のように単独で性状規定文の述語になることはできず、性状規定文の述語になるためには(22)のように、「～さ」を修飾する連体部が必須であると述べている。

(21) a. *部屋の中は暑さだった。

b. *辺りは、まばゆさだった。

c. *安田と石田部長の結びつきは、深さでした。

(22) a. 部屋の中は[熱帯のような]暑さだった。

b. 辺りは、[店に入る前とは見違えるほどの]まばゆさだった。

c. 安田と石田部長の結びつきは、[外部で想像した以上の]深さでした。

（新屋（2014:33）より転載、[]は筆者）

要するに、属性としての評価的な値を持つ形容詞と異なり、形容詞からの転成名詞「～さ」はその評価的な値が空虚であるため、そのまま述語機能を持つ名詞述語文や「NPがある」属性文に用いることができず、叙述の内容を連体修飾語か連用修飾語に任せることになると考えられるのである。

6. 終わりに

本稿は日本語文法の伝統的な分析でよく「所有文」とされていた「NPがある」属性文の持つ形容詞文との形態的・意味的な類似性を指摘し、さらに形容詞文との文法上の関連性をも検討した。「NPがある」属性文は①連体修飾と述語の二つの用法を持つこと、②量副詞と共起できず、主に程度副詞に修飾されること、③比較表現に用いられることの3つの点においては形容詞文と同じ性質を持っている。一方、①連体修飾用法より述語用法が多用されること、②形容詞からの転成名詞「～さ」には意味的な自足性がないため、文中に単独で用いられることができず、連用修飾語か連体修飾語をつけなければならないことの2点においては、普通の形容詞文と大きな違いを見せていることが分かった。

参考文献

1. 大塚望（2004）「「がある」文の多機能性」『言語研究』125:111-143.
2. 沖森卓也・山本真吾・木村義之・木村一（2016）『品詞別 学校文法講座【第四巻】副詞・連体詞・接続詞・感動詞』明治書院:24.

3. 工藤浩 (1983) 「程度副詞をめぐって」渡辺実編『副用語の研究』明治書院:176-198.
4. 新屋映子 (2014) 「形容詞派生の名詞「～さ」を述語とする文の性質」『日本語の名詞指向性の研究』ひつじ書房:33-49.
5. 玉村文郎 (1974) 「語彙論から見た形容詞」『同志社国文学』第10号:87-104.
6. 鄧超群 (2018) 「「とても NP がある」構文に関する一考察」『国際文化研究 (第24号)』東北大学国際文化学会:47-61.
7. 仁田義雄 (1998) 「日本語文法における形容詞」『言語』27巻3号:26-35.
8. 彭広陸 (2002) 「「Nアル」をめぐって—「Nノアル」「Nガアル」との比較を兼ねて」『日本学研究 (11)』北京:世界知識出版社:70-86.
9. 森田良行 (1980) 「日本語の形容詞について」『講座日本語教育 第16分冊』早稲田大学語学教育研究所:108-124.
10. 八亀裕美 (2007) 「第2章 形容詞研究の現在」工藤真由美編『日本語形容詞の文法—標準語研究を超えて』ひつじ書房:53-78.
11. 渡辺実 (1990) 「程度副詞の体系」『上智大学国文学論集』23号:1-16.

付記

本稿は 2020 年度湖南省社科基金一般項目“基于生成词库理论的汉日动名组合句法结构与语义关系研究”の助成を受けた成果の一部である。